

開催地名	埼玉県飯能市
開催日時	令和8年2月28日(土) 14:00～16:05
開催場所	飯能市役所
語り部	菅原 康雄(宮城県仙台市)
参加者	自主防災組織の方約45名
開催経緯	近年、地震や台風・大雨など各地で想定を超える災害が発生しているが、行政・警察・消防支援の活動に限界がある場合もある。こういう場合に軸となるのが、自助・共助の意識だと考える。より実践的な知識やスキルを身につけていただく場としてこの研修会を開催した。
内容	<p>－究極の減災をめざして 仙台・福住町方式－</p> <p>(1)宮城県仙台市宮城野区福住町について 現在世帯数は403世帯で、人数は1088名。その中で役員は38名。その約半数が女性であり、女性の参加は様々な意見、問題提起など素晴らしいものがでてくる。こういった防災に関しても是非女性の参加を推奨することをお勧めしたいと考える。</p> <p>(2)福住町町内会防災計画 住民を巻き込んで、住民参加型の訓練を行うことで顔見知りになる。災害にあった地域に行き、物資の支援をすることで「きずな」ができ支援につながると考える。また名簿を作成することによって高齢者・障がい者などの状況を把握しやすくしている。個人情報のバリアを取り払い「いのちを含めた減災」に努めている。</p> <p>基盤となっているのが以下の四つである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害予防の計画(減災) ・災害応急対策の計画と実施(訓練) ・住民全員参加型の構築(協力体制) ・災害時復旧復興の実施(支援～支縁) <p>(3)避難所の問題点 実際に経験して適切と思われたことは以下である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定避難所の運営は、地域のリーダーが運営すること。 ・在宅避難者も指定避難者と同等に対応すること。 ・指定避難所にライフラインの設置。(電気、ガス、火) ・指定避難所の備蓄品は、公的機関に常に置いていくこと。(一日分)

・動物の同行避難について、事前に取り決めをして必ず避難場所を確保すること。

(4) 福住町町内会の親睦・融和

日頃の「防犯パトロール、灯籠流し夏祭り、敬老会、子供会歓送迎会、登下校の見守り」で顔見知りになることは大事である。また家具の転倒防止も町内会で震災前に実施していた。防災訓練はお祭りのように愉しく参加できることが大事である。お祭りなら誰でも参加する。防災訓練という名目だと参加者が少ない。福住町では「秋まつり」として、防災訓練を全員参加型で開催している。

(5) 経口補水療法(ORT)

熱中症・下痢などで水分が体から抜けてしまうと、命を落とすこともある。普通の水より25倍の速さで吸収される特別な飲み物。経口補水液の作り方はお湯500mlに塩小さじ1/4杯と砂糖小さじ2杯をかき混ぜてできあがり。市販の経口補水液がない場合に役立つものである。

(6) いのちの分水嶺

止むことのない災害に強い危機管理意識を持って、自分が助かる術を真摯に検証し、たったひとつの大切な命を守りぬく強固な意志を貫くことである。自分が助かれば、他人を何人も助けることができるかもしれない。

(7) 福住町の減災に対する取り組み

福住町では、災害がいつ来るわからないので訓練をするのではなく、災害がいつ来ても「立ち向かう力」を身につけるための減災訓練をするという考えである。一人一人が強い危機管理を自覚し、自分が助かるための最善策を真摯に考え、貫くことが重要である。どこで災害に出会うかは皆同じではないから多岐に渡って想定する必要がある。また、現在進行形で注力しているのは、第一に、次世代を担う「小学生・中学生を訓練に参加」させ体験と体感を通じて自ら気づきを学ぶこと。第二に、女性の生活力の知力、気力、行動力は男性の体力に優ると考えており、より多くの女性の参加をすすめる。第三に、「タイムライン(行動計画表)・マイタイムライン(個人の事前準備)」を住民に周知、危機管理意識を向上させ、自助・共助に力を注ぐことである。

(8) さいごに

それぞれの町にそれぞれふさわしいやり方が必ずあると考える。



開催地より

災害において多様な避難者を想定し、さまざまな配慮を検討しておく必要があると考える。女性や乳幼児、高齢者、障がい者を始め、いわゆる災害リスクが高い方への多様な視点から検討しておく必要があると考える。そのためにも、話し合いの場への女性の積極的な参加が重要となってくる。自主防災会への女性の参加の声掛け、女性防災リーダーの育成といったことを検討いただきたい。